

令和 8 年度病虫害発生予報第 5 号（9 月予報）概要表

令和 8 年 8 月 2 6 日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稲（5 月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（穂いもち）		並
（2）紋枯病		並
（3）セジロウンカ		並
（4）斑点米カメムシ類		並
（5）コブノメイガ		並
<u>2 大豆</u>		
（1）べと病		並
（2）食葉性チョウ目幼虫		やや多
（3）ダイズサヤタマバエ		並
（4）シロイチモジマダラメイガ		並
（5）吸実性カメムシ類		並
<u>3 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）うどんこ病		多
（3）ハダニ類		やや多
（4）果樹カメムシ類		並
<u>4 なす（夏秋栽培）</u>		
（1）うどんこ病		やや多
（2）オオタバコガ		多
（3）ハダニ類		やや多
（4）アザミウマ類		やや多
<u>5 きゅうり（夏秋栽培）</u>		
（1）べと病		並
（2）うどんこ病		並
（3）コナジラミ類		多
（4）アザミウマ類		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

<u>6</u> <u>ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) 黒斑病		やや多
(2) ベと病		やや少
(3) 軟腐病		並
(4) シロイチモジヨトウ		並
(5) ネギアザミウマ		多
(6) ネギハモグリバエ		並
<u>7</u> <u>いちご (定植時) の防除対策</u>		
(1) 炭疽病		
(2) ハダニ類		
<u>8</u> <u>茶</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) チャハマキ (第 3 世代幼虫)		並
(3) チャノコカクモンハマキ (第 3 世代幼虫)		やや少
(4) チャノホソガ (第 4 世代幼虫)		並
(5) チャノミドリヒメヨコバイ		並
(6) カンザワハダニ		並
(7) チャノキイロアザミウマ		やや多
(8) クワシロカイガラムシ (第 3 世代幼虫)	早	

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 並＊： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並＊」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和 8 年度病虫害発生予報第 5 号（9 月予報）

令和 8 年 8 月 26 日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5 月下旬以降の移植）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (穂いもち)	並	○8 月中旬の発生量：散見 □県予察ほ場の葉いもちの発生量：並（±） □8 月中旬の葉いもちの発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・上位葉に葉いもちの病斑が多いほど、穂いもちが発生しやすいため、注意深く観察して防除の有無や回数を判断する。 ・常発地や感受性品種を作付している地域では、大型の斑点米カメムシ類との同時防除を検討する。
紋枯病	並	○8 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・上位葉の葉鞘に病斑を確認した場合は、収穫前日数に注意して、薬剤による防除を速やかに実施する。
セジロウンカ	並	○8 月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・本田に定着しているため、株元をよく観察し、発生が多い場合は薬剤による防除を実施する。
斑点米 カメムシ類	並	○8 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：やや多（＋） □予察灯によるイネカメムシの誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・7 月 29 日発表の「注意報第 2 号」（ 参照 3 ）を参考に薬剤による防除を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
コブノメイガ	並	○8 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・止葉が食害されると登熟に悪影響を及ぼすため、本田での発生状況を確認し、薬剤による防除を実施する。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 3：令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 2 号「イネ斑点米カメムシ類」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r8-2.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 大豆

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：無（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・在来系統や県奨励品種の「里のほほえみ」は本病に罹病しやすいため、特に注意する。
食葉性 チョウ目幼虫 〔ハスモンヨトウ オオタバコガ シロイチモジ ヨトウ〕	やや多	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・ハスモンヨトウについては、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ダイズ サヤタマバエ	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・開花終期～莢伸長期（開花始めから 1～2 週間後）を目安に防除を実施する。
シロイチモジ マダラメイガ	並	○8月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・子実肥大初期～中期（開花期 20～40 日後）を目安に、薬剤による防除を実施する。
吸蜜性 カメムシ類	並	○8月中旬の発生量：散見 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・9 月以降はミナミアオカメムシが急激に増加するため、発生状況に注意する。
【共通注意事項】 ・播種時期により生育状況が異なるため、ほ場を注意深く観察し、発生を確認したら速やかに防除対策を実施する。			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

3 なし

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○8月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・見つけ次第摘除し、園外で処分する。
うどんこ病	多	○8月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・まん延による早期落葉を避けるため、発生状況に注意して防除を実施する。
ハダニ類	やや多	○8月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・高温期は増殖が速いため、こまめに発生状況を確認する。
果樹 カメムシ類	並	○8月中旬の発生量：散見 □予察灯等による誘殺数：やや少（-） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら収穫前日数に注意して速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや多	○8月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
オオタバコガ	多	○8月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・ 5月26日に発表した防除情報（ 参照4 ）を参考に防除対策を実施する。 ・ 防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	やや多	○8月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・ 高温期は増殖が速いため、こまめに発生状況を確認する。
アザミウマ類	やや多	○8月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	
【共通注意事項】 ・ 早期発見に努め、発生を確認したら収穫前日数に注意して速やかに薬剤による防除を実施する。 ・ 薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 4：令和 8 年度病害虫防除情報「ナスのオオタバコガについて」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20260526en.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 きゅうり（夏秋栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・ハウス内が乾燥しないよう、温湿度管理に注意する。
コナジラミ類	多	○8月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（＋）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
アザミウマ類	やや多	○8月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い（＋）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	やや多	○8月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
べと病	やや少	○8月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	
軟腐病	並	○8月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多肥栽培では発生が助長されるため注意する。 ・台風や集中豪雨などによる大雨で発生が助長されるため、明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジ ヨトウ	並	○8月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照 2）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。 ・ほ場によっては既に幼虫による食害が見られるため、十分に注意する。
ネギ アザミウマ	多	○8月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。
ネギ ハモグリバエ	並	○8月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（定植時）の防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
炭疽病	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・育苗中に発病した苗およびその周辺の苗は定植しない。
ハダニ類	・育苗中に発生が見られた場合は、定植前の苗の防除を徹底して、本ぼへ持ち込まないようにする。 ・定植前の苗の防除には高濃度炭酸ガス処理の効果が高いことから活用を検討する。 ・高温期は増殖が早いため、定植後はこまめに発生状況を確認する。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 茶 (1/2)

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」「やぶきた」「こまかげ」「ふくみどり」は発生しやすいため、一番茶残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ (第3世代幼虫)	並	○8月中旬の発生量：並 □県予察灯への誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる第2世代成虫の誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・令和8年度病虫害防除情報「チャのチャハマキについて」（ 参照 5 ）を参考に防除対策を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノ コカクモン ハマキ (第3世代幼虫)	やや少	○8月中旬の発生量：やや少 □県予察灯への誘殺数：やや少（－） □フェロモントラップによる第2世代成虫の誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノホソガ (第4世代幼虫)	並	○8月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並（±） □フェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 5：令和8年度病虫害防除情報「チャのチャハマキについて」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20260709cha01.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶 (2/2)

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量 並	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するため除草を励行する。
カンザワ ハダニ	発生量 並	○8月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	発生量 やや多	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	
クワシロ カイガラムシ （第3世代幼虫）	発生時期 早	■8月26日現在、有効積算温度（アメダスデータ青梅）による第3世代幼虫孵化最盛日の予測は9月14日（平年9月23日）：早（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除適期は、孵化幼虫期を中心とした短期間であるため、関係機関から出される最新の防除時期予測に留意する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ — （令和8年5月1日～8月31日）

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風の無い日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#)から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和8年8月20日発表)

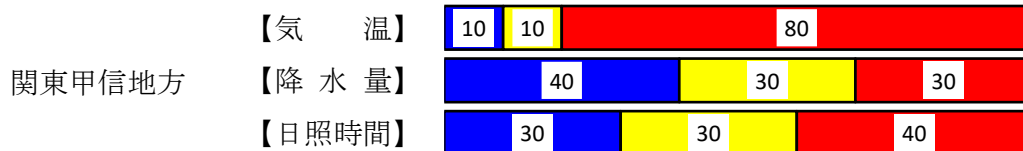
出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

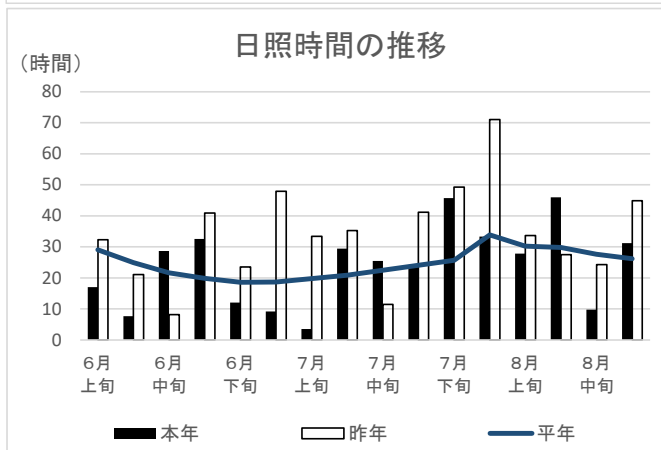
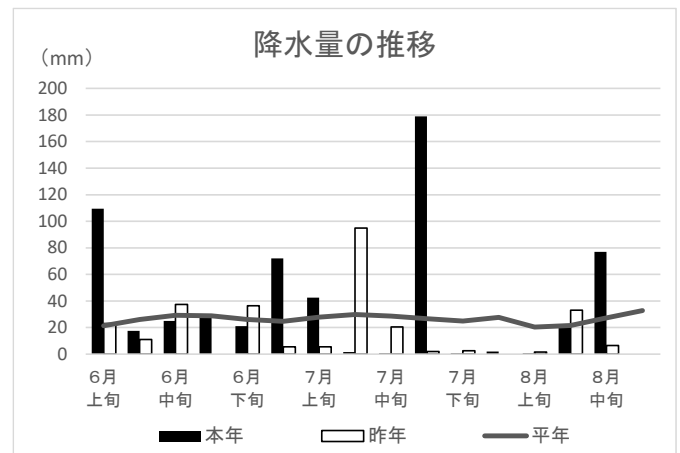
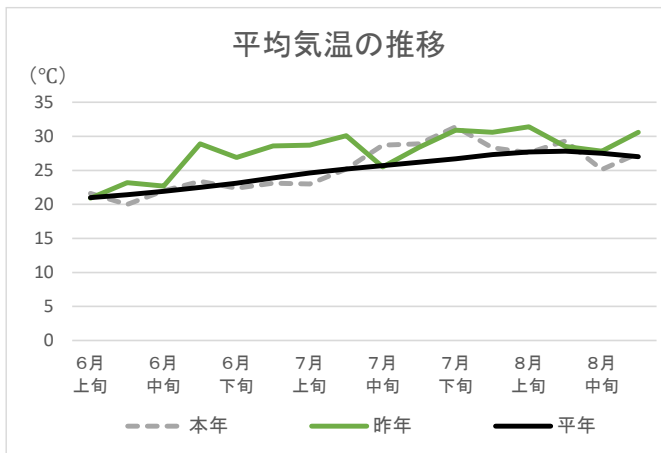
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い (少ない) 平年並 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>